

名誉会員の推挙に寄せて



古川 孝順 新名誉会員 (東洋大学名誉教授・西九州大学教授)

【本学会役員歴】

第18期 理事(3年)、第19期 理事(3年)、
第21期 理事(3年)、第22期 理事(会長)(3年)、

理事通算4期(12年)



会員歴 53年

この春、明治学院大学で開催された総会において名誉会員に推薦して戴きました。

思い起こしますと、私が学会に加入したのは1964(昭和39)年ですので、今年で会員歴53年ということになります。ちなみに、私の職歴は67年に熊本学園熊本短期大学(現熊本学園大学社会福祉学部)に専任講師として赴任したことに始まります。71年に日本社会事業大学の専任講師に就任し、助教授、教授として91(平成3)年3月まで20年間勤務しました。その後、東洋大学社会学部・ライフデザイン学部に21年、現職の西九州大学健康福祉学部で6年目ですので、大学教師通算50年ということになります。私の履歴書書いてきましたが、これまでのことを考えるともう53年にもなるのかという印象です。しかし、今日入会して53年と考えると、そこまでやれるだろうかと考え込んでしまいます。

私の会員番号は579です。現在の会員数は約5,000ということですので、この50年、学会は規模的には随分と拡大したものです。数ある学会のなかでも、規模でいえば、中堅の学会に発展したことになると思います。

さて、私が学会の理事に就任したのは阿部志郎会長のときでした。その後、任期制限の時期を除いて、通算12年間理事を勤め、最後の任期のときに会長職に就任させて戴きました。私が理事を務めていた時期は、いってみれば学会が急成長した時期にあたります。1980年代から90年代にかけて福祉系の大学が急増し、おのずと社会福祉の教員、研究者、そしてその供給源としての大学院も急増するという状況を反映した会員増でした。任期中は、事務局組織の改革、地方部会の活性化、フォーラムの発展、関連学会との連携、韓国や中国の学会との連携など、さまざまな活動に携わってきました。しかし、一番の思い出は、学会の一般社団法人化です。結構大変な仕事になりましたが、幸い現会長の岩崎晋也さん、その他の皆さんと一緒に難問を克服し、なんとか実現させることができました。ある会員に学会発展の基盤を築いたことになるのではないかといわれ、少し安堵しました。

学会は規模も拡大し、運営も組織的になりました。しかし、ときどき、些か表現に難ありますが、学会が単なる業績稼ぎの場になっていないかと感じる場面があります。業績主義の肥大など、研究職や教員職のありようも変化してきています。しかし、学会はもともとお互いに課題を共有し、その研究に切磋琢磨する者たちのコミュニティとしてあったように思います。規模を考えると難しいのかもしれませんが、これからの学会が、仲間うちだけの点数稼ぎの発表会であることを超え、同じ社会福祉学でも分野の違う研究者、異なる出自の研究者、別の大学等に所属する研究者たちが一堂に会して出会い、交流、連携し、社会福祉学の学問としての成果を競い合う場として発展し続けることを願っています。